

コロナウイルス感染防止のため「ステイホーム」の日々を過ごしたが、桜が開花し木々に若葉が芽吹き春の訪れを感じたかと思うと、5月には最高気温が25度を超える夏日がやってきた。季節はコロナウイルスに関係なく移り変わり、春から初夏にかけて、蜜蜂にとって沢山の花が咲く一番の活動シーズンとなつた。働き蜂は朝日が昇ると同時に花蜜や花粉を集めに巣を飛び立ち、女王蜂も毎日200個以上の卵を産む。5月号で紹介した分蜂もこの時期だ。前号では蜜蜂が分蜂と逃去を繰り返すことで自然環境に適応し種をつないできたことを紹介したが、西洋蜜蜂の近代養蜂では分蜂の管理と女王蜂の更新が重要となる。



人間は早くも40000～50000年前に蜜蜂を操るすべを習得し、巣箱を携えて旅をした。エジプトではファラオの時代から、周辺諸国から蜂蜜を輸入し、養蜂家はナイル川を上り下りする荷船で頻繁に巣箱を運び、花蜜を集めては道中で蜂蜜を売った。ところが何世紀もの間、どのように蜂蜜が出来るのか人間は知らなかつた。古代エジプト人は蜂蜜が主神ラーからもたらされると信じていた。蜜蜂を観察し科学的に解明しようとしたギリシャ人やローマ人でさえ、蜜蜂が蜂蜜を作つていることに気づいていなかつた。蜜蜂と蜂蜜の関係が解明されたのは17世紀になつてからのことと、19世紀になつ

分蜂管理と女王蜂更新技術で西洋蜜蜂の養蜂が飛躍的進歩

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト 最高顧問 高安和夫

て、ようやく現在使用されている巣箱や巣枠も考案され、分蜂管理と女王蜂更新の技術が飛躍的に進歩した。そして1820年代に西洋蜜蜂はヨーロッパからの移住者によりオーストラリアにもたらされ、1850年代に南米を航行する船によりカリフォルニアに持ち込まれた。(ルーシー・M・ロンゲ『ハチミツの歴史』より)

日本では1877年(明治10年)アメリカからイタリアン種の西洋蜜蜂を輸入し、勧農局新宿試験場(現在の新宿御苑)で試験飼育がはじまつた。その後、蜜蜂は小笠原に移り日本での西洋蜜蜂養蜂がスタートする。当時カリフォルニアから日本への船旅はハワイ経由で1か月以上かかつた。移動は蜜蜂が巣箱の中で過ごす冬だ。女王蜂は通常、群れに1匹だけだが、同時に予備の女王蜂も輸入したに違いない。人工分蜂と女王蜂更新の技術を得たことにより、小笠原では300群以上の繁殖に成功した。



背中に緑色のマークがある2019年生まれの女王蜂。
西洋蜜蜂の養蜂では分蜂防止のため片方の羽が半分カットされる

事業紹介
NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。

平成22年6月環境大臣表彰。
平成24年4月農林水産大臣より
「食と地位の『絆』づくり」
選定を受ける。

に育つ性質を利用し、女王蜂を作ることが可能となつた。この技術を利用して「蜂蜜をたくさん集める」などの優良品種の女王蜂を繁殖させることもできる。養蜂家は交尾が済んだ女王蜂の背中にカラーペイントでマーキングする。一ペイントでマーキングできる。国際的な取り決めもあり2019年生まれの女王蜂は緑色だ。そして、片方の翅を切つて仮に分蜂しても遠くに飛ばないようにする。野生のミツバチを捕獲する日本蜜蜂の養蜂とは異なり、西洋蜜蜂の養蜂はやはり畜産業だ。

に育つ性質を利用し、女王蜂を作ることが可能となつた。この技術を利用して「蜂蜜をたくさん集める」などの優良品種の女王蜂を繁殖させることもできる。養蜂家は交尾が済んだ女王蜂の背中にカラーペイントでマーキングする。一ペイントでマーキングできる。国際的な取り決めもあり2019年生まれの女王蜂は緑色だ。そして、片方の翅を切つて仮に分蜂しても遠くに飛ばないようにする。野生のミツバチを捕獲する日本蜜蜂の養蜂とは異なり、西洋蜜蜂の養蜂はやはり畜産業だ。